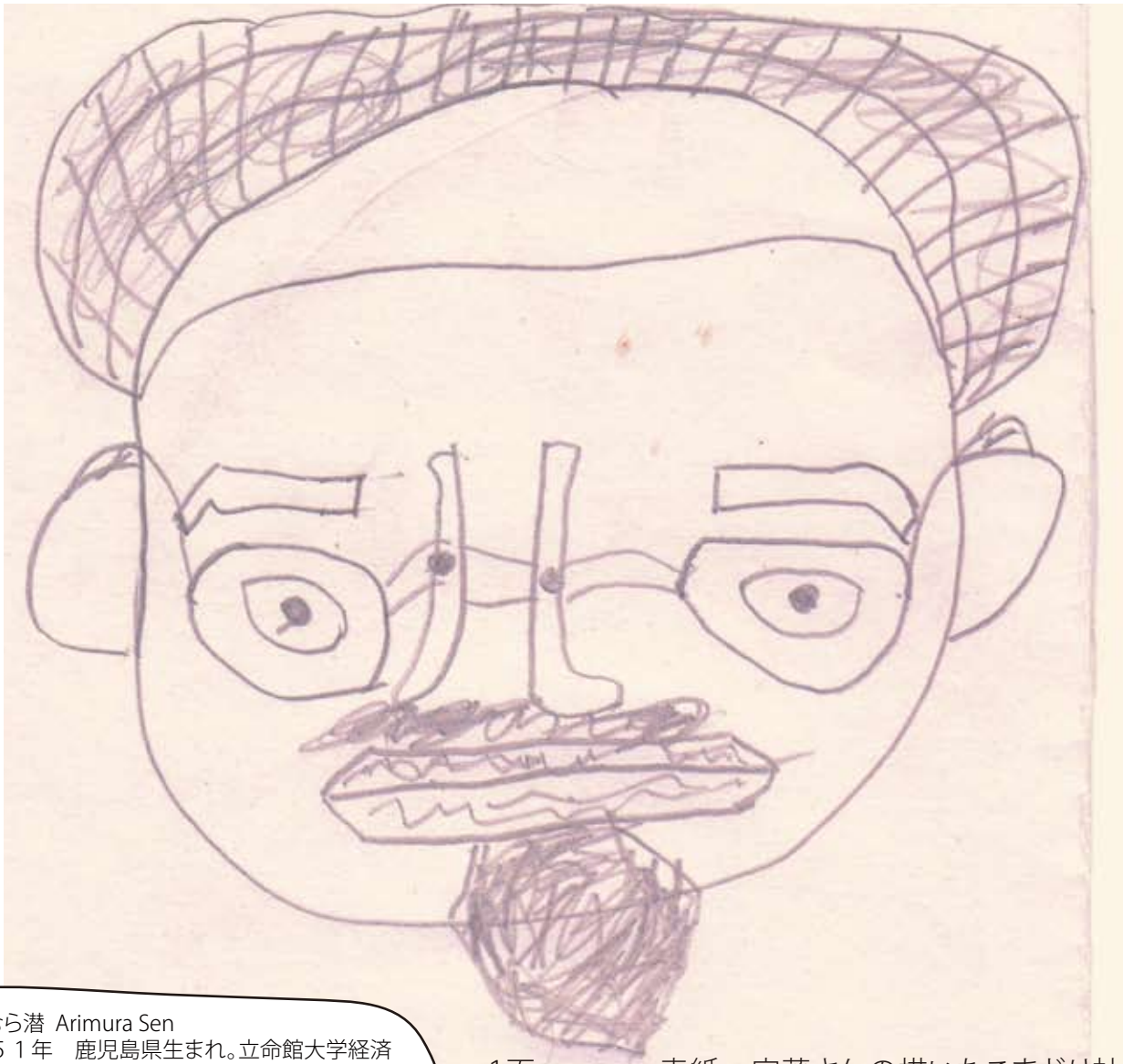
カマメ通信　ＶＯＬ５

発行：カマン！メディアセンター



1面　表紙　安藤さんの描いたこまどり社
2面～4面　ありむら潜さん　中川くん
カマン！ラジオインタビュー特集
5面　みんなの作品　間借りつうしん、今月のビッキー
6面　4月のイベントスケジュール

ありむら潜 Arimura Sen
１９５１年　鹿児島県生まれ。立命館大学経済学部卒業後、大阪市西成区の釜ケ崎（あいりん地区）にある財団法人西成労働福祉センターに就職。１９７７年　同センター利用の日雇い労働者向け広報誌「センターだより」の発行開始に伴い、４コマ漫画を描き始める。以後、仕事のかたわら青年誌や新聞などに、釜ケ崎ドヤ街を舞台にした漫画「カマやん」シリーズや、サラリーマンもの、　スポーツものを、描き続ける。　釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長。http://www.kamagasaki-forum.com/

中川竜太　Nakagawa Ryuta
1986年生まれ　千葉大学をこの３月に卒業。ＮＰＯ法人コミュニティアートふなばしにてアートマネジメントを担当。カマン!メディアセンターにはコミュニティアートふなばしのイベントがきっかけで今年11月から継続的に関わってくれている。今回カマメ奥４畳半レジデンス企画第一弾にて、カマン!ラジオををプロデュース。

〒557-0002　大阪府大阪市西成区太子1-11-6
電話・ＦＡＸ　06-6643-3133　開店 12:00～20:00
URL　http://www.kama-media.org/

カマン！ラジオ インタビュー

ありむら潜さん

「カマン！メディセンター」の４畳半滞在企画第１号「カマン！ラジオ」プロジェクト。その中で、釜ヶ崎にある西成労働福祉センターで働き、名マンガかまやんの生みの親であり、釜ヶ崎のまち再生フォーラムの事務局長であり、３０年以上にわたりこのまちに関わってこられたありむら潜さんに、千葉の大学生であり、ラジオプロジェクトの企画者、中川くんがインタビューをしました。

ありむら：1961 年に大きな釜ヶ崎暴動があって、なんか対策をやらなくちゃいけないということで行政が乗り出して、でも通常の職安のやり方、つまり労働者たちが窓口で対応するというやり方にはなじまないだ ろう、この地域なりのやり方があるんじゃないか、例えば相対紹介というね、あいりんセンターの１階のところで直接求人者と求職者が対面して決めるというやり方にした。そういう、求人プラカードを挟んで交渉するというやり方をするには、民間のかたちをとらないとできないということで、財団法人というかたちをとって日雇い仕事を紹介し始めたんですね。（これがあいりん総合センターとその中の西成労働福祉センターのはじまり）

中　　川：なるほどなるほど。あいりん総合センターってＪＲ新今宮の駅を降りてすぐのところにあるあの大きな建物ですよね。

ありむら：はい、そうです。異常に不気味な建物ですけどね。

中　　川：ぼくもきたときびっくりしました。

ありむら：がらんどうでね。ほんまにね…、なぜあそこががらんどうになっているかというと、朝早くから、まあ朝の５時になるとあそこのシャッターが上がって、求人の車や求職者が集まってこれるように、大量の人が集まってきますからそういうことが可能なように、ああいう風にがらんどうになっているんですけどね。

中　　川：そうですね。ぼくもこの間朝の５時に起きて、センターのシャッターが開くのを見てきたんですけれどやっぱり聞くところによるとだいぶ、車の数も仕事の数も減って来ていると聞いたんですが。

ありむら：減りましたね。でも、この３、４年はいくらか持ち直してきていたんですよ。

中　　川：そうなんですか？

ありむら：そうなんですよ。この１０年の流れでみたら。2005 年くらいから新潟県の地震やら兵庫県の水害やらがあったあの頃からね、３，４年は持ち直して来てたんですけどね。それが、耐震強度の新しい基準をつくるとかそういう細かいこともあって、2007 年から減り始めて。とりわけ去年のリーマンショック以後ですね、しごとがなくなって。それでも労働者は集まってきていたんだけれど、2009 年の春くらいから今度はその労働者が集まるということ自体がなくなってきた。

中川：そうなんですか？！

ありむら：そうなんです。

３面へ →

ありむら：そういうことって初めてなんですよ。仕事が集まってこなくって、でも労働者はあふれているという状況は過去何回もあったし常にそういう姿だったんだけれども、去年からのできごとというのは、そういうものと根本的に違っていて、仕事も集まって来ないけども、労働者も集まって来ないっていう状況が初めてでてきたんです。なぜそうなったかというと、あまりにも仕事の減り方が激しいので、それが長引くので、労働者がもう生活保護に回ってしまったというのがあるんですよね。一方ではそういう状況を受けて、国の通達で大阪市も生活保護の適用のハードルを随分下げたんですね。さほど年齢がいっていなくても、若い人でも生活保護を申し込めばＯＫという状況が出てきたんでね。それで老いも若きも生活保護に３千人以上の人が新たに流れて行った。現役層が、働ける人たちがそちらへ流れて行った。労働者そのものがいなくなってきたと、いうことで、だからガラガラですよね。

中川：そうなんですか。生活保護は月１２万円でしたっけ？

ありむら：１２、１３万ですね。年齢だとか時期だとかによって違ってきますが。でもね、今までなかったことなんですよ。そういうことは。おまけに最近はこういう話まであります。求人業者の方の話ですけどね、仕事が入ったんだけど、労働者が集まらないから仕事そのものをね元請けに対して断ったと。これはもう完璧な悪循環ですよね。
他の制度に流れて、あいりん地域の寄せ場に人が集まらない。業者にしてみたら、だから仕事そのものを断ったという。釜ヶ崎のそれこそ何十年に渡るできごとの中では考えられないことですよ。だからまあ、根本的な転換期だということですね。
でも忘れてならないのは、まだ一万人は労働者として働いているというのが大事なことで、そこでがんばっている一万人への応援はすごい大事だろうなと。忘れてほしくないなあと。あちこちでそう言っているんですけどね。ですからこれからの釜ヶ崎は当面現役層1万人、生活保護層1万人の時代とも言える。
　そのうち生活保護の１万人に対してどういうことができるか、その１万人がどんなくらし方をするかによって、このまちは変わるでしょう。まちの変わり方が異なってくるでしょうね。何にもサポートしなくって、ギャンブルや仲間内での酒だとか、その果てに野宿を繰り返すとかということになれば、生活保護バッシングがものすごい規模で社会からやられるだろうしね。生活保護そのものが悪いということになってくる。そうしてこのまち全体が否定的に見られてしまうんで、そういう風にはなりたくないなと思いますけどね。

中川：必要な人には必要なんですよね。生活保護も。

ありむら：生活保護になること自体が別に悪いことじゃないわけだからね。働けなくなった人が、あるいは働けるけれど仕事がどうしてもない人が生活保護をもらうというのは、それは当たり前の話なんですよ。だからその当たり前にその制度が適用されているだけの話でね、そのこと自体は別に決して否定的に見る必要はない。ただ、働けるのに仕事がないという状態は非常に良くないことなので、何とか仕事を得て、それで飯食っていけるという風にしないと。そちらのほうがとても大事なことで。あと、仕事ができなくなった人たちには、安心してくらせるようにサポートするとか、介護が必要な人には介護保険につながるようにしたり。生き甲斐がほしいという問題がどうしても出てくるから、生き甲斐やらつながりやら得られるように、そういう仕組みをつくっていくことがとにかく重要です。

中川：かなり幅が広いですよね。

ありむら：そう。かなり幅が広いよね。

中川：お話を聞いて、労働者の方にお仕事を紹介するという仕事ももちろんメインであるんですけど、そのほかにも働けんくなった人たちのためにも紹介していかないけんというところもある。
ありむら：いえ、わたしは今、まち全体の課題のことについて言っていて。一応釜ヶ崎のまち再生フォーラムというまちづくりＮＰＯの事務局長をやっているので。わたし個人の今働いているところでの課題って言ったら、むしろその現役層に対してどういうサポートをするかということがメインですけどね。まちとしては、やらないかんことが広がったわけですよね。これまでは単純に、仕事さえあれば何とかなると言っていたのが、そうでなくなってきたわけだから。

中川：それに関して、ひとつあるんですけれど、よく「やる気がない」というのをいろんなところで耳にするんですけれど、今回もちょっとラジオを収録していてそういう話もちょろっと聞いたんですけれど…

ありむら：やる気がないってどの？誰たちのですか？

カマン！ラジオ

中川：外から来た人がよくゆっとって、働く気がないのかな…とかって…

ありむら：ああ労働者のことを？

中川：そうです。必ずしもそうじゃないですもんね。

ありむら：生活保護にあがった人たちのことをゆってるの？

中川：いや、仕事をしていない人たち全般について…

ありむら：それはね、昔からもうずーっといわれ続けてきたことで。で、それは釜ヶ崎というか問題の中に入りきれてないから、そういう風に見えるということですね。

中川：そうですね。よく外から来た人から聞かれる話です。

ありむら：それをもう少し中に入ってよーくね、例えばひとりひとりにくっついて、観察してみたら「ああ仕事に行ってがんばっているときがある」とか、仕事に行ってないときは全然違う雰囲気ですごしてるというようなこともわかったりするかもしれない。あとね、日雇い仕事の特性というのをもうちょっとそういう人たちには見てほしいよね。

中川：特性？

ありむら：あのね、つまり、普通のサラリーマンであれば、同じ会社で同じ仕事にずっと携わっていると、やりがいも生じるし責任も生じるし継続的にそこに働きかけて行かなあかんわけですよ。ところが日雇い仕事の場合は、単純化すれば毎日現場が違うわけ。毎日会社が違うし、毎日工事も違うわけや。なんというか、自分がやらなあかんことは、８時～夕方５時の間言われたことをこなすだけ。労働力という商品をそれこそ提供してそれを賃金に見合った使い方をする。そこの一点だけであってね、そこにその人が、責任持たなきゃいけないわけではないし、毎日輪切りみたいなかたちで仕事に来ているわけだから。そこにそのね、積極的な必要以上のがんばりをやろうとは思わないし。

中川：確かに確かに…

ありむら：ようするに、きのうが今日につながるわけでなく、今日があすにつながるわけでない。

中川：ああそれが輪切りっていうこと…

ありむら：そうそう、きのうはきのう、きょうはきょう、明日は明日、いい意味でも悪い意味でもそういうように時間の継続性が断ち切られているというのが、日雇い労働者のいわば特徴なんですよ。意識もそういう風になっているからね、やっぱり。過去と現在もつながっていないわけね。なんでかっていうと過去いろいろあって、それを断ち切ってこのまちに来ているわけだから。だからこのまちで生きているわけだから、過去をずっと引きずっていたら生きていけないわけですよね。ここでこうやって日雇いの仕事をやっているかぎり、やっぱりその仕事がすごく評価されて、未来が切り開かれるとかいうようなことっていうのは難しいんですよ。だからそういう輪切りに断ち切って断ち切って時間の流れすら断ち切っているのが日雇い労働者。あと関係も断ち切っているんです。いろいろなつながり、自分の家族との関係も断ち切っている。だからそういう本当に極度に細切れになった生活構造であり、意識構造だから、当然、そういう人がねそういう状態でね仕事に行ってない日どんな過ごし方するかっていったらそれはやっぱり、ぼーっとして過ごすってことになるでしょ。これが原理。ただ最近は作業現場もとりわけ厳しくなっているから、きちっと仕事をこなさないとつかってもらえない。だからその程度には一生懸命バリバリ働いているというのはあるよね。
今の若い人たちだってそうでしょう。ニュー日雇い。工場に派遣されるやんか。その仕事は今日やった、あるいは今まで蓄積してきたものが技術となって、技能となって、明日につながるかというとつながらないでしょ。

中川：そうなんですよね
ありむら：極端にマニュアル化された単純な作業であると同時に、そのラインが終了したら全部もうリセットされてゼロになるわけだから、その人にとっては生きる力になっていかないわけ

中川：ものすごい不安だと思うんですよね。明日仕事があるかわからんし、何年後とかいうあれじゃないわけですよね。

ありむら：その点で言えばね。ぼくらまちづくりひろばというのを月１回やってるんですが、新旧日雇い労働の経験者が集まって座談会というのをやったことがあるんです。

中川：おもしろそうですね。

ありむら：新旧、いろいろ違いも大きいし、共通点もある中で、違うことは何だろうと。昔は、オールド日雇いは、仕事の中で先輩や仲間から技術を覚えることができたわけや。だから鉄筋工になったり鳶になったりしていったわけや。生きる力になっていったわけや。ところが今のニュー日雇いの派遣業の製造業なんかのスタイルは、それすらされないわけですよ。もうラインが更新されたらおしまいやんか。仕事の内容も極めて単純化されている。だからつまり、いっくら働いてもキャリアになっていかないし、生きる力になっていかない。これほどおそろしい状況ってないんじゃないかと。違いといえばそこが一番違うなあということでね。むしろ今の方がもしかしたら悲惨かもしれないなあと。

続きはカマメＨＰ内　カマン!ラジオのページへ
http://www.voiceblog.jp/kamame/

みんなの作品

山王子どもセンターでのワークの感想

山王こどもセンターさんにて、ドラマ教育の岩橋由莉さんといっしょにからだをうごかしたり、ちいさいドラマをつくったりしました。その感想の絵をこどもセンターのこどもたちが描いてくれました。

今月のビッキー

エリーのおうちにあそびに行って来たビッキー
なにやらミーティング中のようす

ビッキーとは

ココルーム、カマメ常連おじさん、安藤さんがどこかからひろってもってきたかものはしさん（もぐらさんという説もあり）。いろんなぬいぐるみがやってくるココルームの中でも、その愛くるしさで里子に出されることもなくたのしくくらしている。

エリーたち

ココルーム常連のおじさんのうちの子。おじさんが亡くなったときにはココルームでくらすことになっていて、今はそのときのためにココルームの環境に慣れておくべく定期的にココルームに合宿にきている。

カマメ 月刊借りつうしん

はじめましてカマン！メディアセンターの2階に引っ越してきました、NDS（中崎町ドキュメンタリースペース）です。名前からもわかるように以前は北区の中崎町に事務所がありました、今年の3月から釜ヶ崎で劇映画を撮る為に事務所を西成区にうつし、肌で感じた事を大切にした映画をつくりたいと思っています。NDSはなりたちは2006年春に映画監督原一男さんによる講座「ドキュメンタリーする魂」にいた受講生（講座内で自分たちの作品は完成しなかったが講座終了後も集まり）、お互いの映画を批評しつつ力をつけ完成を目指しました、そんな場をいっしょにNDSと呼ぶようになりました。「彷徨する魂を越えて」この春5月1日～14日九条にあるシネ・ヌーヴォにてNDS新作「空っ風－伊開発・RCの原発」（監督村橋子）「（仮）遺言なき自死からのメッセージ」（監督横井浩志）をお披露目としてまたこれまでのNDSの作品から3本、NDSのメンバーでもあるNDUの柳川徹郎さんの作品から7本、ゲスト上映として「愛の上」（監督富田克也）「ばの」（監督村井克洋）合計14本上映します。皆さん、ぜひ観にきてくださいね。

今月の釜ヶ崎句会　俳句

酒飲みが　つくる俳句に　春の風

前野　一茶男

その他の俳句は　カマン！メディアセンター
ホームページへ！　http://www.kama-

4月　イベントスケジュール

カマン！メディアセンター KAMAN!mediacenter カ　ココルーム COCOROOM コ

4月2日（金）19：00～　カマン！ＴＶ with NSD（中崎町ドキュメンタリースペース） カ

4月4日（日）11：００ごろから夕方まで（雨天中止） カ
第一回　ココルーム桜お花見大会
場所：阿倍野区桃が池公園北側ベンチ周辺（現地集合）※各自、お昼ご飯やのみものは持参してください。
※アルコールはほどよく他に迷惑がかからない程度におねがいします　※余興などありましたらぜひおねがいします

4月5日（月）19：00～　発掘映像を見てみよう カ
カマメの奥に眠っている映像を発掘して、みんなで見てみます。カマメ短期スタッフ橋爪明日香さんの撮られた映像「みんな空でつながっている～イラク人質事件今井くん～」や、長瀬舞さんがカマメで撮られた映像「1:00 カマメで」から、ココルームの昔の映像、カマメやココルームに送られてきた映像で、まだ見れていないものなどなど、

4月7日（水）19：30～　パソコン講座
わからないところ聴きたいところ教えられたり教えたり　ゆるやかなパソコン教室 カ
料金：５００円　In カマンメディアセンター

4月8日（木）19：00～20：00　自分ガタリの会　～vol1　こまどり社～ カ
自分のことについて語る会　vol1 は「こまどり社」 を主催している仮屋崎健さん
自称アーティスト　なぞにつつまれた仮屋崎さんがどんな人生をあゆんできたのかが語られます

4月14日（木）19：30～　カマン！メディアセンター　お２階さん　ＮＤＳ　映像合評会 他
In　カマン！メディアセンター　２階　ＮＤＳ

4月15日（木）19：30～　ごはんをたべながら　坊主な夜～バースデースペシャル～ カ
お坊さんとみんなといっしょにおはなししましょう。この日は、坊主かわなみさんのバースデーということで
仏教アニメビデオ「王舎城の悲劇」をみんなで見て語ります。

4月16日（金）15：00～17：00　大阪あそ歩　地図づくりの会 カ
大阪あそ歩のマップづくりをみんなでするための会議！基本的にご近所に住まれている方の企画になりますがどなたでもお気軽にどうぞ

4月17日（土）　18時30分～　「釜ヶ崎の思想を囲む集い vol.3」 カ
■応答者：キット・ガーチャウ
■テキスト：「個・共同体空想、その他」（寺島珠雄『釜ヶ崎――旅の宿りの長いまち』プレイガイドジャーナル社、1978年所収）
＊テキストはコピーしたものをココルームに置いてあります。ご希望の方には PDF を送信いたしますので、下記メールアドレスまでご連絡ください。　コーディネーター：原口剛（090－6736－6993 ／ haraguch0508@yahoo.co.jp）

4月19日（月）15：00～16：00　釜ヶ崎句会！　（自由参加　申込不要）手ぶらであそびにきてください
みんなで句をつくって、句会に句を出してみよう！　＜今月の句題＞蛙の子、桜、山椒、種蒔き カ

4月21日（水）18：00～19：00　みんなでたのしく「釜ヶ崎ねぷた」をつくりましょう！
第一回　ねぷたの映像を楽しみましょう カ
参加費　無料（申込不要）連続企画　指導：ねぷた絵師　対馬昭
ねぷた絵師さんがねぷたのことを教えてくれる連続企画。第１回目はねぷたの映像をみながら、ねぷたについて知っていきます。

4月24日（土）17：30～　きたさんの　こどもにもどって絵を描こう！会　（参加自由　申込不要）
色があそぶ絵を描く会　気ままに参加　気ままに描きます カ

4月24日（土）19:00 集合ごはん　20:00 はじめ　小沢健二「うさぎ！」を読む会 コ

4月25日（日）16：00～18：00　みんなでたのしく「釜ヶ崎ねぷた」をつくりましょう！
第二回　ねぷたってなんだろう？ねぷた絵師さんによるレクチャー編 カ
参加費　無料（申込不要）連続企画　指導：ねぷた絵師　対馬昭
ねぷた絵師さんがねぷたのことを教えてくれる連続企画。第２回目はねぷたとについての説明レクチャー！

4月28日（水）　18：00～　手芸部
ちくちく手芸部の時間はいかがでしょうか※針、糸、はぎれはあります。何か縫いたいものがある人は布など持参してください カ

4月29日（木・祝）19：30～20：30　自分ガタリの会　～vol2　カマン！メディアセンター　原田麻以～
自分のことについて語る会　vol2 はカマン！メディアセンタースタッフ原田麻以
スタッフ原田のおそろしくプライベートなことをカマン！メディアセンターというパブリックスペースで大公開予定。 カ

■すべてのお問いあわせ・お申し込み
カマン！メディアセンター
大阪市西成区太子1-11-6　tel&fax：06-6643-3133
info@kama-media.org　http://www.kama-media.org

■ココルームでは寄付を受け付けています
三井住友銀行　天王寺駅前支店　普通1585265　郵便振替　記号01090-5-48059
トクテイヒエイリカツドウホウジン　コエトコトバトコ　cocoroom代表　ウエダカナヨ